information

富士市民活動センター　コミュニティｆ
コミュニティｆは富士市内の市民活動を応援するための施設です。

団体登録要 / 事前予約要 — **ミーティングルーム**
常時は１ブース12名の配置ですが、人数や会議スタイルによって50名ほどまで対応できます。

団体登録要 / 事前予約要 — **特別会議室**
定員12名の完全個室の会議室です。経営的な会議や、相談業務などにご利用下さい。

団体登録不要 / 事前予約不要 — **フリースペース**
ネット閲覧PC3台常設。自動販売機もありますので、ちょっとした打合せや休憩にご利用下さい。

印刷サービス

オルフィス
片面・両面印刷対応。資料作成などにご利用下さい。

（※注）印刷は合計10枚以上からのご利用となります

	普通紙	フルカラー	両面加算
白黒　A4	3円	5円	2円
白黒　A3	4円	7円	2円
カラー　A4	11円	13円	10円
カラー　A3	12円	15円	10円

大判印刷
A1判・A2判・横断幕の印刷も可能です。
▸A1判…800円
▸A2判…400円
▸横断幕（1mあたり）…1000円

断裁機、折り機、丁合機も揃っています

裁断機
最大断裁厚約200枚、断裁奥行：310mm（A4長辺）まで裁断可能です。
無料

折り機
ご希望の折り方に折る機械です。用紙サイズにより不可ありです。
無料

丁合機
複数の印刷物を頁順に並べ揃える機械です。
無料

総会の資料印刷はお早めに

印刷物のお渡しは、後日になることがございます。紙折り機・裁断機・丁合機はセルフサービスになります。

■ その他のサービス

メールボックス、ロッカー、インターネット利用は無料でご利用いただけます。

その他　**ＮＰＯ設立相談、イベント支援、プレスリリースなど**　の相談を承ります

■ ご不要になった実用書・ビジネス書をお譲り下さい

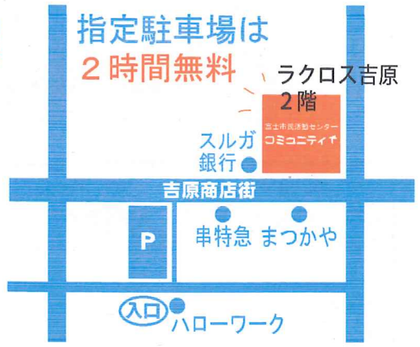
コミュニティｆでは、図書コーナーの充実をするために、皆様の家で眠っている実用書・ビジネス書の寄付をお願いしています。ボランティアや市民活動のスキルや意識向上に役立ちそうな本や、他の市民活動に利用できそうな絵本を募集しています。読まないけど捨てられない本、ぜひ他の方々にも読んでほしい本などがございましたら、ぜひコミュニティｆまで直接お持込ください。

コミュニティｆ
富士市民活動センター

2010年10月1日で、ＮＰＯ東海道・吉原宿が指定管理で運営を始め２年となりました。今後ともサービスの向上に努めてまります。

E-mail	info@com-f.net
ＨＰ	http://www.com-f.net
開館時間	月曜ー土曜10:00〜22:00 日曜・祝日10:00〜17:00
休館日	年末年始

富士市吉原2-10-20　ラクロス吉原2階



編集後記

おかげ様で『NPO　EXPO』が無事に終了いたしました。参加者の皆さま寒い中お越し下さりありがとうございました。また、託児の人数の都合によりお断りした方、大変申し訳ありませんでした。そして、ただいま『フジパク』が開催中です。富士・富士宮・沼津にて計26の体験型プラグラムととっても盛りだくさんの内容になっています。まだまだ、ご予約を受け付けております！詳しくはチラシをご覧ください。

富士市民活動センター・コミュニティｆは、ＮＰＯ法人東海道・吉原宿が指定管理者として運営を行っています

市民活動を応援するセンターの情報誌　編集・発行

コミュニティｆ
富士市民活動センター

コミュｆ ニュース

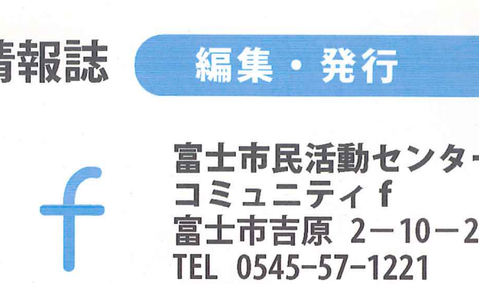
2011. 2. 15発行
第１５号

富士市民活動センター
コミュニティｆ
富士市吉原 2−10−20
TEL 0545-57-1221
FAX 0545-57-1091
ホームページ
http://www.com-f.net

特集

NPO EXPO 完全レポート

NPO EXPO レポートです。



ホームページ　http://com-f.net/
ブログ　http://blog.canpan.info/com-f/
コミュニティｆ　検索

コラム

そこが知りたい！コラム
社会人基礎力ってなに？2

なかま

い・ろ・ん・な・な・か・ま
吉原絵てがみ同好会 富士川第一小学校３年生

掲示板

市民活動団体からの
催事・お知らせ

イベント

イベント報告
講習会/セミナーなど

お知らせ

みんなきてきて
コミュf利用者の会

３月１６日　19：30〜21：00
３月１７日　10：30〜12：00
コミュｆ利用者で交流会を深めましょう

この冊子はコミュニティｆの印刷機オルフィスで印刷されてます。

NPO EXPO

富士市民活動センターでは新年の門出を飾るべく、1/14~2/2の約3週間にわたりNPO EXPOを開催しました。期間中、各市民団体のパネル展示と、まちづくり・福祉・子育てなど様々なジャンルの講座を開講し、年々高まる富士市内における市民活動の熱気を感じ取ることができました。

オープニングイベントを飾ったのは、手軽にインターネット上で無料の生中継ができる「USTREAM」と、同じく無料で通話ができる「スカイプ」について。また、翌日は日本各地に広がるオンパクを熱海で実践開催している「オンたま」実行委員長による地域資源の磨き方について開講しました。

今月のコミュfニュースは、そんな大盛況に終わったばかりの『NPO EXPO 2011』を大特集します！！

プレイベント①

無料電話「スカイプ」と無料生中継「USTREAM」活用術

skype USTREAM

講　師：㈱アンフープ　関野洋一郎さん

前半はUSTREAM編。パソコンとwebカメラとマイク、そしてネットのできる環境さえあれば誰もが手軽に簡単に中継配信が出来る魅力に迫りました。

講座の冒頭、一昨年前に中継された行政刷新委員会の事業仕訳の模様を視聴。これがきっかけでUSTREAMはメジャーになりました。

USTREAMは日常の様子をビデオで撮影し、その映像をそのまま編集せずにリアルタイムでネット上で公開していることから"ダダ漏れ"とも呼ばれ、昨年の秋には吉原地区を通過して東海道53次を走破した「Panasonicエボルタくん中継」や「石畳の街　岡本の商店街中継」また「歌舞伎座の解体工事生中継」などが注目されました。

何が魅力かと言えば、既存のテレビ中継とは違い、USTREAMはログインすれば簡単に登録ができ、なお且つ自分だけのチャンネルがもてるので、

①お店の雰囲気中継
②セミナー中継
③音楽演劇など生ライブ
④ラジオの生中継
⑤演説ライブ

などの活用案が出されました。

第2部のスカイプ編では登録してある者同士ならどこに何時間かけても無でしかも高音質。更にチャット（文字）やビデオ通話も無料とお得感がいっぱい。海外や遠隔で離れていてもWebカメラでお互いを映し合いながら会話が楽しめることをその場で実演しました。

導入手順は至って簡単。まずは

STEP1. 必要な道具を揃える
STEP2. ソフトウエアをインストール
STEP3. 会員登録をする

これで準備はOK。通話だけでなく小さなデータ通信なども送ることが出来るので、　①セミナー、パソコン塾、英会話レッスン　②相談　③占い　④進捗打合せや会議、などに実際に活用され、その可能性はまだまだ無限です。

講座の最後に『道具は使わないと価値を生みません。一歩踏み出し使ってみて、価値を実感して下さい』と関野さん。

まだまだ使い道にヒントが眠っているUSTREAMとスカイプ。臆することなく皆さんもチャレンジしてみてはいかがでしょうか。

プレイベント②

「オンたま」に学ぶ地域資源の磨き方

講　師：熱海温泉玉手箱実行委員長　市来広一郎さん

プレイベント第２弾は、熱海のまちづくり体験プログラムを地域の事業者（住民）と共に企画・運営している、NPO法人atamista代表理事で、オンたま実行委員長の市来広一郎さんをお招きし「オンたまに学ぶ地域資源の磨き方」について講演が行われました。

「オンたま」とは熱海温泉玉手箱の略で、小規模の体験交流型のイベントを開催し、そこに潜在する地域の魅力を掘り起こそうといったもの。これまでに島の文化に触れる初島めぐりや、カメラ屋さんとの写真散歩、港のおばちゃん直伝のいかメンチ作りなど熱海のならではの企画が人気で、09年の第1回開催以来今回で4回目となり、参加者も約2600名にのぼっています。

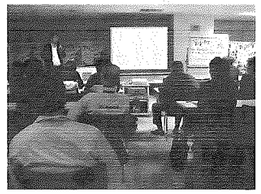
「熱海のためとかではなく、人のチャレンジを後押ししたい」「特技や趣味を一緒に楽しむ」「人は資源、住民が主役」「なにかやってみたいという、たった一人の思いを応援したい」といった言葉が印象的でした。

「観光客というより地元の人向け。地元の人が楽しんでいれば周りの人も自然とよってくる」と市来さん。かつて賑わいをなくした故郷の熱海の現状を知り、自分たちのまちを元気にしたいという思いから始まったオンたま。

オンたまを通じて市民がまちを愛し、誇りに思うことの大切さを再認識しているそうです。

講座の後半には、市来さんの活動に触発され、来る2月に「フジパク」を開催する実行委員長のヒロ☆ヤマザキさんが登場。

「私たちの地域の輝くものをさらに磨きあげ、人と人との交流によって素敵なまちへと変えていきたい」と、フジパクへの熱い思いを語っていただきました。



まちづくり・NPO

若者がNPOで輝く！
～NPO POPOLOが労働・貧困題に取り組む理由～

講　師：NPO POPOLO
代表 鈴木 和樹さん

NPO EXPOの第1回目として講演をしていただいたのは、NPO POPOLO代表の鈴木和樹さん。名称のPOPOLO＝「みんな」という意味。様々な意見、想い、知識、経験などが集まり貧困がみんなの問題として活動していけたらという想いを込めて名付けたそうです。　POPOLOのメンバーは20～50代、大学生やフリーター、また行政書士や大学院生、保険会社で働く方もいます。

POPOLOの労働・貧困問題への取り組みとして、貧困生活者の早期支援があります。早い段階で貧困生活者の声を拾い、早期に社会復帰してもらうことを目指しています。また安心ライフサポート窓口を設置し、夜回りしながら路上で寝泊りしている人達に声をかけ、家の斡旋や相談業務をしています。これは役所の対応や方針がまだ行き届かず、トラブル防止の為にサポートをしているそうです。

先般若者の貧困を回避するため、これから社会に出て働く人達に、働くことはどういうことなのかを知ってもらうために、企業と学生が討論式で交流会を行う社会人交流事業「チェンジメーカー」も企画しました。

実は鈴木さんは、静岡大学の夜間部に通う学生でもあることから、学生という立場からのアプローチで若者の労働に対する知識を向上させていこうとチャレンジしています。

なぜ若者の貧困問題に取り組んでいるのか？それは「若者も貧困に陥る可能性があるから」と鈴木さん。ご自身は小学生の頃から生活保護を受けていた過去があり、その経験から「生まれた環境で将来が決まってしまう。貧困問題には二つの『えん』の定義があり「お金」があれば最低限飯は食えるし「縁」があれば助けてくれる人がいて生きていける。しかし、これらがないと路上生活者になってしまう」というメッセージには貧困に打ち勝ってほしいという想いがこめられています。

POPOLOでは若者が積極的に参加することで社会の構造を知り、研修を通して知識を蓄え、自分のできることや必要とされることをどんどん見つけだして将来に結び付けてほしいと思っています。その手助けするのがNPOの役目であると語っていました。

今後は若者たちと一緒に飽食格差解消のため、期限切れ間近や捨てるはずだった食品を、食べ物を必要とする人に届けて活かされるようにするフードバンク活動をしていくそうです。

「NPOだからこそできることがある、そのようなことを私達は積極的に応援していきたいと思っています！」

今回、新聞やニュースなどで見る貧困問題が実は身近で起きていることを知りました。その人の将来も見据えて早期の発見・対応を行い「生活の向上及び増進」を考えられてやっと「救い」といえるのではないかと思いました。

まちづくり・NPO

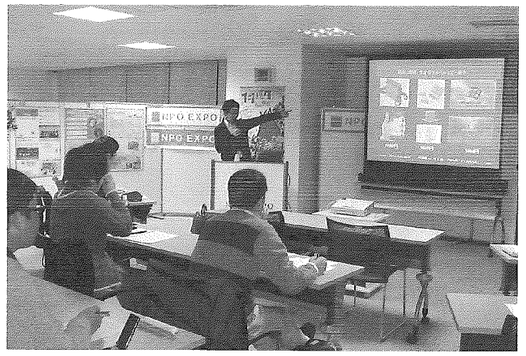
手をのばすほんの少しの勇気を100万人の清掃活動

講　師：NPOサプライズ
代表理事 飯倉 清太さん

NPOサプライズ代表の飯倉清太さんに、「100万人の清掃活動」を中心にお話していただきました。

NPOサプライズとはインターネットで集まった人間で２００８年１０月９日設立したNPOで、静岡県東部伊豆地区を中心に活動している団体です。

「１００万人の清掃活動」とは参加は自由で、自分の住んでいる場所に落ちているゴミを拾って、拾ったゴミの写真をNPOサプライズのホームページに送るというもので、少しの勇気を出してゴミ拾いをすることによって、一人ではできないことも同じことをしている人がどこかにいるということを感じられ続けることができ、結果的に大人数でゴミ拾いをするという企画です。その他にも、影奉仕やボランツーリズムなどのゴミ拾い企画を行っています。



代表の飯倉清太さんは、地域が動き出すコツとして、地域内連携・地域外連携が大切だとおっしゃっていた。「地域内連携」では、やりたい人が中心になり、少ない人数でもやりたいことをやっていくことが大事。「地域外連携」では、外からの目線を入れることによっては内側からでは、見えないことが分かるという利点がある。この二つを意識することで地域を動かしていくことができる。

また、活動するにあたって大切なことの１つに、何かを変えようとせず自分が変わるそして、対応する。ということもおっしゃっていた。 NPO サプライズの今後の動向に注目したいです。また、富士でも不定期で影奉仕の活動を行っております。WEBで影奉仕で検索していただければ閲覧できます。

子育て

生まれたことが楽しくなる！ ～誕生学®の可能性～

講　師：母力向上委員会
代表 塩川 祐子さん

現在、3人のお子さんを子育てする傍ら、母力向上委員会の代表を務める塩川さん。誕生学®には2年前に出会いました。以前、看護師・保健師の仕事をしている時に生と死の現場に立ち会う機会があり、興味を持たれたそうです。

「誕生学®」とは「生まれてきたことが嬉しくなると、未来が楽しくなる」をコンセプトに生まれてくる力を伝える教育プログラムです。自分がどんな風にお母さんのお腹の中で成長してきたのか、どんな力を使って生まれてきたのかをそれぞれの年齢に合わせた表現と内容で伝えます。

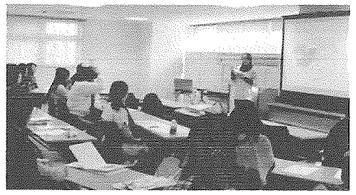
まずは、参加者に「赤ちゃんってどうやって生まれてくるの？」というテーマで、自分ならどう答えるのかグループでディスカッションをしました。頭では理解していても言葉にするの案外難しく、皆さん思わず考え込んでしまいます。「あなたは神様からのプレゼントなんだよと答えた。」、「子どもがまだ幼いので聞かれたことはないが、きっとパパとママが愛し合っているからと教えると思う。」などの意見がありました。

「子どもが小さい頃から、このような質問にちゃんと答えてあげることによって、プラスのイメージで捉えることができるのです。自己肯定感を持っていると、将来の性行動にも自分を守らなくてはという自分を守る力が生まれてきます。また、子どもへの虐待にもブレーキをかけられるのです。」

「親には誕生学®を通して『命の伝え方』を伝えたい。子どもたちは、誕生したことが、いやらしいことなのか素晴らしい事なのかを親の態度で感じとります。」と塩川さん。

普段からスキンシップに慣らしておくことも大切。不快な触られ方なのか愛情のある触り方かの違いがわかるようになっていくといいます。

また、性教育の本も紹介。子どもでも読める本、大人が子どもに読んであげられる絵本など多くの本がありますが、一度読んでおくといざ聞かれた時にドギマギせず落ち着いて誕生について教えられるようになるそうです。「思春期になっても話かけることで、子どもは関心を持ってもらえていると感じます。無関心がいちばんいけないことなのです。」



その後、「ようこそ、いのち　ありがとう」のDVDを鑑賞。様々なお産の形を見ていくうちに、自身の出産を思い出し涙を流していた参加者もいました。また、赤ちゃんの人形や骨盤の模型、大型絵本を用いて、米粒ほどの命が序々に大きく変化していく様子を学びました。

「自分の周りの人たちや自分を大切にしてほしい。そして、子どもたちには『生まれてきてくれてありがとう』ということを伝えてほしい。」

誕生学®の講師として、初めて講演をされた塩川さんでしたが、とても和やかな雰囲気で命の大切さを語ってくださいました。終了後、多くの参加者に囲まれて質問や相談に応じていらっしゃいました。

子育て

もう悩まない！ 2才児に教える片づけ方

講　師：片づけ対話サロン
笠井 静さん

「断遮離」という言葉がはやった一昨年。「それでもまだ物を片づけられないっ！」と嘆く主婦の声をよく耳にしますが、今回の講師整理収納アドバイザーの笠井静さんも片づけが苦手な2児の母。どうしたら家事・育児が楽になれるか考え、独自の片づけ方をあみだしていったそうです。

冒頭、まずは整理整頓の正しい極意を掲げました。

①ごちゃごちゃしてきたから片づけること＝整頓
②目的を持って片づけをすること＝整理。

おもちゃを買う前にまずはおもちゃをしまうスペースを決め、整理してから入るだけを買うことにするという、「目的をはっきりすること」が第一。夫婦間で片付けについて話し合い、同じ考え方で子育てをすることが大切なのだそう。また、小さい頃から日常的に子ども自らが片づけをしていると、それが後々当たり前になります。見守る側は小さい子相手なので時間と手間がかかりストレスで手を出しがちですが、親側にメリットも。

①掃除が楽になる
②怒る回数が減る（ストレス減）
③自由な時間が増える

子どもに家事を手伝ってもらうことで親の大変さや感謝の気持ちを知り、子ども自身の次からの行動に変化が生じます。

次に笠井家のおもちゃ箱を拝見。100円均一で売られている透明の容器がいくつか登場しました。中には種類別におもちゃが小分けに入っています。大きなおもちゃ箱にざっくりおもちゃが入っていては、なかなか子どもが一人で出し入れができない事が多いので、種類ごと小分けにすることによって探す時も取り出す時にとても楽になります。容器は

①透明なもの
②いろいろな大きさ
③開閉が楽なもの

そして**「小分けしてざっくり収納」**これがお勧めの収納方法です。

タンスには文字で書くよりキャラクターのシール等を貼り、目印をつけるとしまいやすくなります。

片づけのポイントは

1. 子どもが楽と思う収納方法にすること
2. 子ども自身にやらせようと思ったら手を出さないこと
3. ルールを子どもと一緒に決める
4. 新しいおもちゃを買う時しまう場所を決めてから！
5. 収納方法は時々見直すこと

「子どもに呼ばれた時が改善のチャンス！目先の楽ではなく、少し先の楽を取りましょう！」と笠井さん。

講演の最後には参加者から片づけの悩みなどの相談があり、あっという間の2時間の講座でした。

教育

どこまでがしつけで、どこからが暴力？

講　師：たごうら児童クラブ
代表 瀧元 高子さん

「若いお母さん方に今、伝えておけば、いつかきっと役に立つのでは…」とお話していただいた瀧元さんは4人のお子さんを持つお母さんです。その一方、児童福祉施設に勤務した経験を持ち、現在は、たごうら児童クラブの指導員をされています。

始めに、今回のテーマについて参加者たちが感じたことや自分ならどう答えるかを紹介。その後、瀧元さんご自身がぶつかった子育てについてお話していただきました。

『どこまでがしつけでどこからが暴力？』今回のテーマは、ここ数年、保護者からよく出る相談との事です。正しい答えを出すのは、とても難しい問題です。

クラブの指導員の方々は長年、しつけと暴力の境目について話し合いを続けてきました。その結果、「しつけと暴力に境界線はない！」という結論に至りました。そして、大人も子どももみんな手を挙げることを一切やめて、他に変わる手段を考えました。それは『ことば』です。言葉の中でも『気持ちを表す言葉』に注目しました。また、これに対する保護者や指導員の様々な価値観があることを知った瀧元さんは、クラブのスローガンを掲げることにしました。

「たごうらクラブのスローガンは、自分の気持ちを言葉で伝える。相手の気持ちを言葉で聞く。暴力では伝えない。この3点を重要視しています。大切なのは今、正直な気持ちを相手に分かってもらうことなのです。

また、指導員たちはクラブで起きた出来事から、いじめに関する勉強をして、いじめ防止・対策マニュアルも作成しました。いじめる子やいじめられる子がいない誰でも安心できる居場所をみんなで作ることを目指すためです。」そのうちクラブは安心できるというクラブ大好きの声が増えていったそうです。

居心地の良いこの居場所を大人も子どもも一緒に守り続けたい。というみんなの願いが実を結んだようです。

パワフルで快活な瀧元さんの人柄に惹きつけられて、時間がとても早く経つように感じられました。

福祉

ベルリンで見た世界。 ベルリンから見えた世界。

講　師：ハンドサイクルランナー
竹本　淳さん

21歳の時に交通事故で下半身麻痺の障害を負った竹本淳さん。一年半前に手回しのペダルを漕ぐハンドサイクルに出会い、興味をもった竹本さんはすぐさまチャレンジすることに。

その後ハンドサイクルでの大会出場が国内では見つからず、なんとベルリンマラソンに参戦。その時の発見や感動を、ベルリンで撮影された映像も交えてお話ししていただきました。

「ベルリンマラソンに参加したことで、今まで生きて来た中で偶然と思えた出会いや繋がりが一本の線に繋がっていて、ここに至るまでの必然だったということに気付かされた。障害を持つ前となんら変わらぬ自分がいた。今まで通りすぎたいくつものわかれ道で、進むべき道を選んできたのはいつも自分だったってことを忘れちゃいけないと思う。つまりいくつもの必然を導いてきたのは、ほかでもない自分自身なのだから。」と話す竹本さん。

人は誰しも色んな分岐点に向き合い、そこで悩んで、学んで、決断して、進んで。また壁に当たって、悩んで、学んで・・・。人生ってそれの繰り返しで、立ち止まらなければ必ず点は線で結ばれるはず！という竹本さんの言葉から、一歩踏み出すことが大事で、与えられた人生を精一杯生きるべきなんだなと気付かされました。

ベルリンマラソンを走った理由は3つ。1つ目は、今まで心配をかけたり迷惑をかけてきた周囲の人たちへの恩返しのため。2つ目は、ようやく自分の体に合ったスポーツに出会い、それに打ち込んだ成果を試すため。そして3つ目は自分の周りにいる障害をもった子供やその家族にエールを送るため、だったそうです。

かつて熱海市に住民登録を置きながら身寄りがなく富士市の施設にお世話になった子供達がいたそうで、講演の謝礼金は熱海市職員としてそのお礼の意味も込めて富士市の児童福祉施設に寄付していただくことになりました。竹本さん、ありがとうございました。

休憩時や講演終了後も竹本さんの周りには人が集まり、ハンドサイクルを体験される方もいて終始和やかな雰囲気でした。

利用者さんにおじゃまします！

「吉原絵てがみ同好会」

週1回メンバーで集まり、絵手紙を描いているそうです。月2回、先生に指導に来てもらい、1回の集まりで2～3枚描き上げています。「普段、仕事で忙しい日々の中で、ふと気づいたことや季節感あるものを題材にしています。言葉だけでは気恥かしいものでも、絵に一言添えるだけで相手に気持ちを伝えることが出来ます。絵は整っていなくても味があるものですよ(笑)。本人らしさが伝わるのが大事なのかも。」と、絵手紙の楽しみ方を語る代表の内田知江さん。この日は、貴重なお時間の中、絵てがみ体験までさせていただきました！ありがとうございました。

ようこそ！コミュエフへ

「富士川第一小学校 ３年生の皆さん」

2月7日（月）
社会科見学の授業でコミュｆを訪れてくれたのは、富士市立富士川第一小学校３年生の皆さん77名と、引率の先生それにボランティアのお母さんたち。学校のある場所が富士川以西ということであまり吉原付近には縁がなく、この日は生まれて初めて岳南鉄道に乗った！という子どもが多く、富士市公設市場からジャトコ、吉原商店街、そして富士市役所までを徒歩で調べて歩きました。また来て下さいね！

コミュエフで寄席!?

「吉原小学校 ６年生の皆さん」

2月15日（火）
吉原小学校６年生の皆さんがお世話になっている地域の方や保護者の方に感謝の気持ちを表す発表会が開催されました。館内には、生徒が調査して制作した吉原商店街マップなどが掲示されました。また、吉原寄席が開催されました。吉原商店街にゆかりのある落語でこの日のために向けて練習を重ねなかなか本格的ないい寄席でした。

そこが知りたい！ コラム Vol.11 社会人基礎力の能力と要素

前回、経済産業省のアンケート結果から社会人基礎力とは何かをお知らせしました。企業・学生ともに「人柄やコミュニケーション力」をもっとも必要な要素と考えています。社会人基礎力は３つの能力、１２の要素から構成されていますので社会人として必要な力を再度確認しポジティブな気持ちの持ち方をして社会人として一歩踏み出してください。

①アクション「前に踏み出す力」・・・　主体性　働きかけの力・実行力
実社会の仕事において、答えは一つに決まっておらず試行錯誤しながら失敗を恐れず自ら一歩前に踏み出す。失敗しても他者と協力しながら粘り強く取り組むことが求められる。

②シンキング「考え抜く力」・・・課題発見力・計画力・創造力
物事を改善していく上で、現状を分析し課題の解決するための方法やプロセスについて最善策を検討し考え抜く力が求められる。

③「チームで働く」・・発信力・傾聴力・柔軟性・情況把握・規律性・ストレスコントロール力
個人として、また組織としての付加価値を作りだすためには多様な人との協働が求められる自分の意見を的確に伝え、意見や立場の異なる仲間も尊重した上で目標に向けともに協力する力が求められる。

掲示板 ～市民活動団体からの催事・お知らせ

みんなに教えたくなる
自己防衛術入門

次々に新たな手口が発生している
〝悪質商法〟への対処法を中心にお話します。

■日時：平成23年2月24日(木)
13:30～15:00

■場所：コープしずおか富士中島店
コミュニティルーム
（富士市中島393-1）

■参加費：無料

■人数：20名（託児あり）

■講師：富士市消費生活センター

■問合せ・申込み：ライフサポートセンター
しずおか東部事務所
TEL055-929-9820
（月～金　9:00～17:00）

■主催：静岡県労働金庫
富士市市民部市民生活安全課

フェイスブック入門講座

静岡県民全員集合！
ソーシャルメディア1万人実践会　プロデュース

■日時：平成23年2月24日(木)
19:00～20:30
*講座後、懇親会を予定（実費）

■会場：富士市民活動センター　コミュニティｆ
（富士市吉原2-10-20　ラクロス２階）

■講師：廣田　剛・勝亦　裕美
パソ塾認定講師

■参加費：無料

■問合せ・申込み：
静岡ソーシャルメディア実践会　勝亦様
に電話、FAX、メールでお申込み下さい。

TEL080-3251-8055　FAX：0545-22-2466
Email smilyhiro@gmail.com

福祉と防災を考える講演会

『防災・減災は地域の力』
～密度の濃いコミュニティづくり～

■日時：平成23年3月15日(火)
13:30～15:00

■会場：富士市フィランセ西館4階
大ホール
（富士市本市場432-1）

■講師：黒田　裕子さん
NPO法人災害福祉広域支援
ネットワーク・理事サンダーバード

■参加費：無料

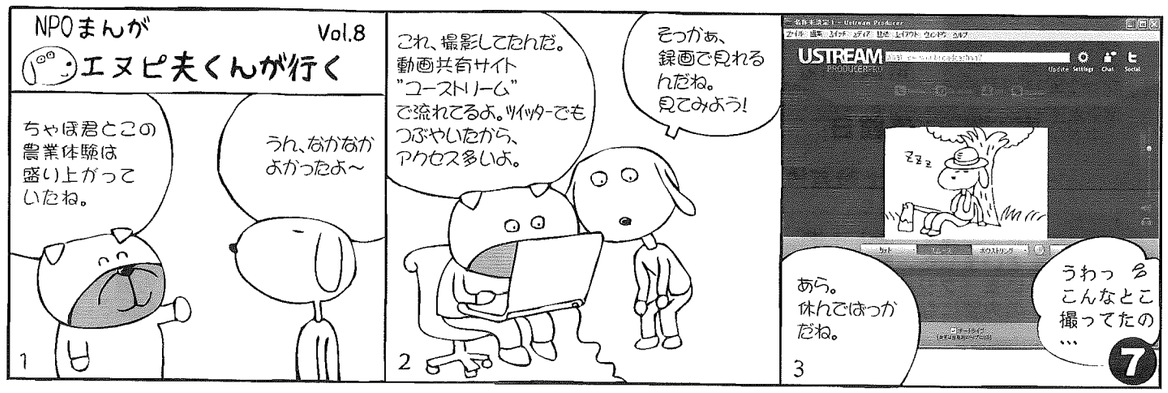
■主催・問合せ：富士市社会福祉協議会
TEL64-6600

親の顔が見たい

劇団昴講演のお芝居で楽しい
一時を過ごしませんか

■日時：平成23年4月3日（日）
18:30開演

■場所：ロゼシアター　中ホール
（富士市蓼原町1750番地）

■入会金：1,000円　月会費：2,500円

■問合せ・申込み：NPO法人 富士市民劇場
（富士市平垣481-4）
TEL0545-63-9201
FAX0545-62-1687
info@fujimamanet.org
またはTEL090-2923-7085